

**大阪市災害救助用備蓄物資の調達・管理における民間活用に向けた  
マーケットサウンディング（市場調査）  
実施結果**

令和5年3月  
大阪市危機管理室

大阪市災害救助用備蓄物資の調達・管理における民間活用に向けたマーケットサウンディング（市場調査）の実施結果を公表します。

なお、参加事業者の名称は公表せず、アイデア及びノウハウ保護に配慮したうえでの公表とします。マーケットサウンディング（市場調査）で寄せられた意見等を踏まえ、今後、災害救助用備蓄物資関連業務の民間運営の可能性を検討してまいります。

### 1 実施趣旨

本マーケットサウンディング（市場調査）は、備蓄物資の管理作業（調達・保管・有効活用等）を効率的に行うため、備蓄倉庫の確保から備蓄物資の管理までをトータルで運営する民間活用の実効性に関し、民間事業者の自由な発想に基づく幅広い事業提案を求めるものであり、その提案や意見の内容が、備蓄物資の効率的な管理や経費の縮減につながるのかという観点から、民間運営の可能性について調査することを目的として実施しました。

### 2 実施スケジュール

実施要領の公表	令和4年12月16日（金）
説明会の開催	令和5年1月10日（火）
参加申込書・提案書の提出期限	令和5年2月13日（月）
ヒアリングの実施	令和5年2月17日（金）、20日（月）

### 3 実施結果の概要

#### (1) 説明会参加事業者

4者

#### (2) ヒアリング参加事業者

5者

#### (3) 提案及び対話の内容（概要）

##### ◆ 管理・運営への参入意欲等

提案事業者のうち、複数の事業者から参入意欲があることを伺うことができました。

##### ◆ 提案内容の概要

提案の要素として以下のようなものがありました。

- ・ 備蓄倉庫内をフォークリフトが自走可能な状況とし、物資をパレット上で管理する。既存施設については、ラックの上にパレットを載せることが可能なスチール製の保管ラックを必要に応じて設置する（多額の改修費用が発生する。）。
- ・ 分散している備蓄倉庫を集約化する。
- ・ 自社倉庫を利用する（多額の賃借料が発生する。）。

- ・在庫管理システムを導入し活用する。
- ・一事業者だけでなく、複数の事業者が連携して調達・保管・有効活用等を実施する。

その他アイデアの提案の要素として以下のようなものがありました。

- ・備蓄物資の有効活用において、市外への提供や譲渡についても実施する。
- ・備蓄物資の有効期限1年以内のものを路上生活者や救護施設等へ給食支援する。
- ・DX技術を活用（備蓄物資に「識別コード」を割り振り、箱へ記載（印刷、ICタグなど）して在庫管理）する。

#### ◆ 自由提案

自由提案では要素として以下のようなものがありました。

- ・平時において、分散備蓄可能な物置が設置できる民間施設を活用する。
- ・災害発生時に自社倉庫で保有する物資を備蓄物資として供給する。
- ・他の自治体と共同して備蓄倉庫を運用する。
- ・備蓄物資の食糧における高齢者向けの品目（要配慮食）を拡充する。

#### ◆ ヒアリングにおける事業者の意見

ヒアリングにおいて事業者から以下のような意見がありました。

- 倉庫管理でのコストがかからない作業環境について
  - ・倉庫管理そのものが民間企業にとってもコストがかかるものだという認識があり、自治体の備蓄倉庫の管理を受託するにあたっては、荷下ろしや倉庫内の移動といった人的作業を極力減らし、コストがかからない作業環境が必要である。
  - ・コストがかからない作業環境の手法として、フォークリフトの自走が可能で、物資をパレット管理できる環境が必須であるという意見が複数の事業者からあった。その理由としては、棚や移動式ラックを用いた管理では、荷受け荷下ろしの際に必ず荷役業務が発生するため、人手が多く必要になるからである。
  - ・長期保存する備蓄物資は、コストを抑えるために徹底的に動かさないことが重要である。
- 浸水区域内の備蓄倉庫について
  - ・浸水区域内の備蓄倉庫は、管理できない。
- 備蓄倉庫の集約化について
  - ・経費削減の手法として、備蓄倉庫の集約化は有効である。
- 在庫管理におけるシステム導入について
  - ・システム導入（ICタグ等の利用）は、在庫の変動が大きいもの（例えば、倉庫には来るが、直ぐに出ていくような、出入りが早い商品）のために使うことから、長期間同じ場所で保管する備蓄物資で用いる場合、却ってコスト高になる可能性がある。